

Crane

翼プロジェクト

A stylized white crane wing graphic with black tips on the feathers, positioned to the right of the Japanese text.

学びの心で世界を変える

TSURUMI
University Junior & Senior High School

学校法人総持学園

鶴見大学附属中学校・高等学校

目指すべき 将来像と目標

目指すべき将来像

建学の精神を基盤にグローバル化した未来を生きる力を育て、社会から高く評価され、保護者から深く信頼される卓越した中学校・高等学校

【建学の精神】 大覚円成 報恩行持 ～ 感謝を忘れず 真人^{ひと}となる ～

教育ビジョン

自立の精神と心豊かな知性を育み
国際社会に貢献できる人間を育てる

教育目標宣言

「学びの心で世界を変える」

方針

生徒に自分の「好き」をみつけさせ、夢や目標を芽吹かせ、
未来に花開かせる

施策の分野と目標

1. 中学校・高等学校としての個性の発進

- (1) 社会や保護者に向けての情報提供
- (2) 小学校・中学校、塾・予備校との関係強化
- (3) 同窓会との連携
- (4) 地域との連携強化
- (5) 高大連携の強化
- (6) 自校史学習の拠点整備

2. 保護者に信頼される教育の実践

- (1) 学力の育成と向上 — 知的好奇心を伸ばし、自ら学ぶ力を身に着ける —
- (2) 人間形成の実践 — 禅の精神に基づいて豊かな心を育む —
- (3) 国際教育の展開 — 国際舞台で活躍できるコミュニケーション力を伸ばす —
- (4) 生徒の就学支援
- (5) 施設設備環境の整備

3. 総持学園の一員として生きがいの持てる職場環境

- (1) 魅力ある職場づくり
- (2) コミュニケーションがよい職場づくり

4. 安定した経営基盤をもつ法人

- (1) 安定した経営基盤づくり
- (2) 目標を掲げた計画的な学校経営
- (3) ガバナンスの強化

学びの心で世界を変える



しばしば「生きる力」の定義として引用される文部科学省の答申(※下記)を再読しました。この答申が表明されてから20年以上の時を経ました。私たちは、常に試行錯誤を重ねて、イノベーションに挑みつつも、今なお「生きる力」を育む指針として貴びます。初志としての禅の教えに合致するからです。

毎年、總持寺の桜花が華やぐとき、12歳の少年少女を私たちの学舎まがやに迎えます。彼らが、大学を卒業するのは10年後です。

中学校・高等学校は目前に役立つ技能を覚える訓練所とは異なります。10年後、そして、さらに遠くの未来に英才を送り出すところです。教育者は、前途の有様を予察しなければなりません。教育主題は、「来る時に備えて有益な知識を蓄え、有用な技術を磨く」を主旨と定めるべきです。

しかしながら――。

現在、社会は急速に変容しています。予測困難な事態が多発。保護者の方々が学生時代であれば「就職すれば生涯安泰」と約束された大企業でさえ倒れました。中学の地理で教わった世界地図は、各地が塗り変わりました。若者男女が手元に「高性能小型コンピュータ」を携える光景は、数年前でさえ予見できませんでした。今後の10年も、人類のイメージネーションを越える変貌へんぼうに驚くでしょう。

電器店には、次々と新機種が並びます。新性能が加われば古い説明書では不足です。社会も同じ。生活、学問、仕事のステージでは、既存マニュアルを

覚えるだけでは立ちゆかないのです。

グローバル化が進行するから英語力を鍛えよう。大学入試制度が変わるから適切な対策を。もちろん、私たちも力を注ぎます。ただし、それらは、「目的」ではなく「手段」の一部に過ぎません。先行きが不透明であれば、「対策」に追われる教育だけでは危うい。如何なる時代が到来しても、何処の土地に送り込まれても、逞しく自己を革新して世界平和のために貢献する大器を輩出したい。そのために、知識や技能より前に、学びの心を耕し、内なる心を開拓しつづける志を授けたい。私たちの誓いは、まさしく禅の精神そのものです。

目まぐるしく変転する世を嘆かず、危難きなんに怯まず、自らを変えよう(=成長しよう)。そして、自ら勇み立って世界を変えよう(=創造しよう)。そう意気込む果敢なパイオニアを育てあげます。

「学びの心」とは何か。常に自らに問いかけて、改革・改善に励みます。「学びの心」の真義を一時も忘れずに、自身を磨きあげて、世界を色鮮やかに照らす英才を輩出します。

「我々はこれからの子供たちに必要となるのは、如何に社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。逞しく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を【生きる力】と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。」

【中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する第1次答申(平成8年)】

「21世紀型」教育の 基盤を確かめて

創立期に注ぎ込まれた学園精神は、現代の教育に相応しい。

世界人を育て上げる貴い指針

初代校長、中根環堂先生。曹洞宗の僧侶にして米国カリフォルニアで哲学を修めました。私たちは、太平洋を渡った先覚者の志を守り継ぎます。国際教育は、長きにわたる太い幹。海外研修や長期留学を、ますます力づけるために、さまざまな構想を描きます。

＊

グローバル化時代に適う人材を育成します。“Global”とは「地球全体の」の意味です。人々が待ち望むのは、国家に属する〇〇人ではなく「地球人」です。国籍・民族を超えて常に「私とあなた」の関わりを紡ぐ「世界人」です。日本人であっても個々は異種です。まず、隣りあうクラスメートと互いに理解を深めて、協働を織りなそう。日ごろの生活で「共生」の心構えを覚えて、徐々に、輪をワールドワイドに広げます。身边で歓迎される人は、遠い異国でもウエルカム。英語力より前に普遍的マインドを教えたい。それが、私たちが推し進めるグローバル教育の本意です。「日本に外国人があふれているから」「英語が話せないと就職できない」と脅して、具体的な「対策」を急ぎ立てる

ばかりでは不本意です。何処に立っていても、如何なる時流に見舞われても、信念を胸に、泰然と構えて、勇敢に立ち向かう主役に育ててほしい。「隨所に主となる」は禅の教えです。環堂先生の固い信条に倣ってほしい。「今」と「ここ」で必要とされる「主」こそが真のグローバル人です。知識や技能だけでは不足。頭脳に「心」を兼ね備える智者を未来に送り出します。

＊

人は本来、自らを大切に思い、人々を慈しみ労る真心を授けられています。「仏心」と表します。共に生きる喜びを分かちあい平和を創りだしたい。皆が願っているでしょう。禅は、異教を遠ざける排他的な思想ではありません。「多様」を重んじ、「異種」を扶ける慈愛を教えます。共生社会を築くべき今こそ、学校教育の貴い指針。私たち教職員は確信しています。禅の教えに導かれ、他校では得がたい真心を培ってほしい。私たちは、日々、課せられた使命を肝に銘じてイノベーションに邁進します。

「隨所に主となる」 — 環堂先生は前世紀から世界人の心構えを教えました —

「21世紀型教育」の実践そのものが目的ではありません。

建学の哲学に適う「真人」を育て上げる手段です。

環堂先生が残した数々の金言は、そのまま、21世紀の心構えに合致します。

「真人」とは、「主体的に社会に献身する人」です。

教育の根本は人物を作ることである。(～略～)智者とか、学者を作るばかりが教育の目的であってはならない。社会に役立つ人間、肚の出来た人間を作らなければならない。如何なる大事に対しても恐れず、小事に対しても侮らせず、貧に処して屈せず、海が干干しても騒がず、泰然自若、能く確固不拔の精神と金剛不壞の信念を持し、自己の所信をあくまで貫徹する人でなくてはならない。

(～略～)

禅門に、「隨所に主となる」という言葉があるが、何れのところにおいても、如何なる職場においても、自分自らが主人公となり、その職場やその境遇に、使役せられることなく使役して行く。(～略～)この職場こそ己の天職であり、聖行であるとするこび勇んで仕事を、(～略～)これが隨所に主となることで、宗教的生活である。

【中根環堂先生 『私の思い出 (附)追悼集』より】



禅の精神が温める「アクティブラーニング」

知識を与えて理解・暗記をはかるだけでは、未来は立ちゆかない。持ちえた学識を役立てる技が求められます。世界は、自ら新しい知識をクリエイティブする開拓者を待ち望んでいるのです。各授業、知識量を試すだけの教育を脱します。「アクティブラーニング(AL)」による学びの心を耕します。

生徒たちは、持ちえた素材を用いて試行錯誤。グループワークやペアワークで議論を交わします。仲間の意見を聞き留めて、自分の意見を重ねます。「コミュニケーション」「プレゼンテーション」のスキルを高めます。「思考」「判断」「表現」の技を極めます。チームで高まり、個々がパワーアップ。さらに、次のステップに駆け出す志気のみなざります。協働を紡ぎ平和を織りなします。

子どもたちは次代を託されます。任務は、地球に山積する難題解決。禅の教えを心根に満たして、人々の平和・安全・快適…を願って自己を磨いてほしい中学校・高等

私たちは、「アクティブ」を、禅の精神に基づき「喜びをもって行う姿」と定義します。自ら、課題を見つけ出し、解決・創造に至る「喜び」を体得してほしい。21世紀人の在るべき姿を伝えつづけます。

学校の6年間は、実社会のリハーサルステージ。経験こそがエネルギーです。行き止まっても見限らず、探究と試行を続けてほしい。失敗こそが宝。勇敢にチャレンジしてほしい。在学中、創造に到達する道のりを、どれだけ「予定演習」できるのか。それが、私たちが描く「AL」に込めた根源的な願いです。



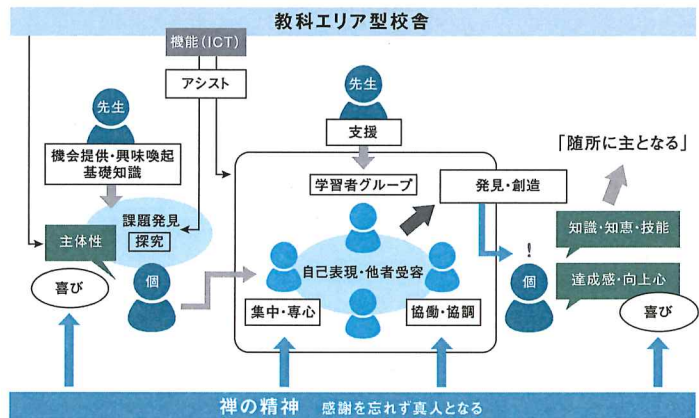
「応用」や「検証」に先走り、「知識・理解」ステップを軽んじるかのような極論は誤解です。中高生が知るべき基本知識の習得を徹底。21世紀においても「知識・理解」は「創造」の基盤だからです。

ALの指導力をはかるのは、授業形態ではない。子どもたちの心の有様です。主体的に奮い立てば記憶量が増します。自ら咀嚼すれば理解が深まります。「知識・理解」もALの一環です。

「ICT」を何に活かすのか？

各教室にICT機器を備えます。ネットワークを介して膨大な情報にアクセス。学びは軽快です。世界の光景を映し出せばライブな知識を体感します。その後、テクノロジーの進歩に伴い拡充。2017年内に、図書館・体育館・講堂を含めた全域にWi-Fi環境を整備。数年内に、個々の生徒がICT機器を携える生活へ導きます。現状ではタブレット端末を想定しています。

機械は、あくまで道具です。教育理念を鑑に、「何に活かすのか」を周到に吟味します。前途の様相を見極め、各教科における意義を明らかに定めたくうえで導入・活用します。



教科エリア型校舎は、アクティブに学びに向かう喜びを体得するための大がかりな舞台装置です。その実りについては次ページに記します。

未来の発揚を確信するために

教科エリア+ホームベース型 校舎の実り

学びの心を育む舞台装置として

平成21年、待望の教科エリア+ホームベース型校舎(以下、「教科エリア型校舎」)が竣工。単なる「整備・美化」「高機能化」とは一線を画する新築。すべての教科が専用の教室で学ぶ構造は、日本の学校設計の常識を打ち破りました。生徒一人あたりの床面積が広く、「経営」の観点では不合理。しかしながら、「21世紀の教育には必要」と信念に満ちて、不用意な妥協なく、完成に至りました。

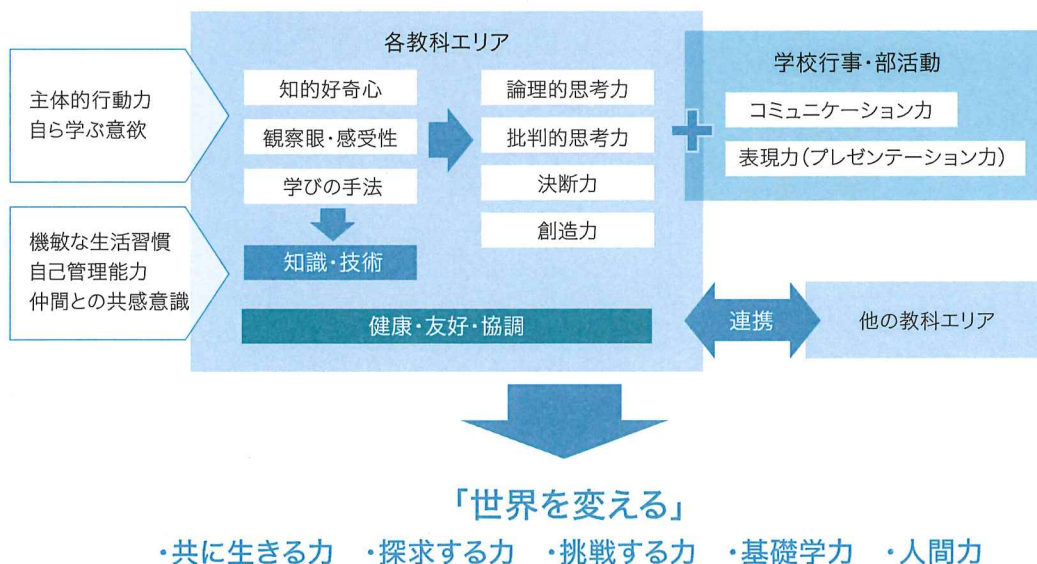
*

教科エリア型校舎は、前例が数少なく、ノウハウ・理論が不足。試行錯誤を重ねる過程で、実りを確信しました。各教科エリアを巡り育った生徒たちが巣立ち始めました。彼らは学びの心で「内なる世界」を変えました。しかし、教科エリア型そのものをもって、「21世紀型」と得意げに誇り高ぶるべきではありません。校舎は舞台装置です。子どもたちの未来のために最大限に活かすのが責務です。この校舎は21世紀型の教育を成し遂げるために不可欠。すなわち、学びの心を養うための理想型と考えます。数々の改革計画は、教科エリア型だからこそ、実現を約束できるのです。

*

禅の精神が支える中学校・高等学校は全国に数校のみ。さらに、徹底した教科エリア型は全国に希です。私立学校としてのアイデンティティーは、誰の眼にも色鮮やかです。唯一無二の学校として、「鶴見大附属だからこそ」なしえる教育ビジョンを描きます。

教科エリア型が育む「学びの心」



学びの心と呼び覚ます

中学校・高等学校の6年間は、前途を左右するドラマチックな成長期です。子どもたちにわき起こる生命力を精いっぱい温めるのが私たちの使命です。

子どもたち自身の士気を喚起し、主体的なアクションを促します。次々と与えるばかりでは、拒んでしまうからです。でも、「さあ、自ら学べ!」と連呼しても、幼い子どもたちは戸惑います。日々の学園生活を通じて「主体的」を体得しなければなりません。

ホームルーム教室で先生の登壇を待つばかりの生活はリズムを欠きます。「次は英語か…」と被害者意識さえ芽生えてしまいます。気概が萎えてしまうでしょう。教科エリア型では、次の教科の教材・ノートを携え専用教室に向かいます。「さあ、次は社会科だ!」と心構えが整います。積極的に学びに向かう生き方を習慣として覚えます。機敏に行動すれば、エネルギーが満ちあふれます。跳ねるように教室に向かえば自ずと心も弾みます。自分のモチベーションに従い振る舞えば、疲れを知らず前進します。

アクティブな学びを重んじる「21世紀型教育」において、教科エリア型は、この上ない仕掛けです。効能をさらに際立たせて、子どもたちの学びの心と呼び覚ましつづけます。

学びの心を耕す

各エリアに喜び勇んで駆けてほしい。心高鳴る教科ワールドに招きたい。改革・改善の主題は明らか。各教科エリアの充実です。

メディアセンターの掲示物に趣向を凝らす。図書を厳選する。日々の創意工夫を忘れません。さらに、各教科の学びを支援するICT設備を拡充。世界へ向かい視界を広げます。テクノロジーが著しく進化を遂げる今に遅れず、可能な限り先進の機器に刷新します。今後、教科エリア型を活かすべくタブレット端末を活用します。各種ICT機器を有意義に役立てるためにデジタル教材を活用します。機械やシステムに頼る「効率化」は不本意。常に教育理念に照らして、「何が必要か」「目の生徒にいかなる成果をもたらすか」を周到に吟味します。

しかしながら、21世紀の未来も、子どもたちを導くのは人。つまり、教職員です。設備自慢の学校に陥らず、「人」を誇る学校でありつづけたい。研修を増量。研究に励みます。21世紀型の教育を実践するためには、まず、私たち自身が「21世紀型の教育者」として務めなければならないのです。

人は研鑽を積み重ねます。教科エリアは、さらに進化。豊穠な実りを期するために、呼び覚ました「学びの心」を耕します。

学びの心を守り立てる

各教科の教員は教科エリアの研究室をベースとしています。ガラス張りの部屋です。休み時間、校舎内は生徒の大移動。ホームルームに激まず、死角に隠れません。廊下を行き交う生徒の表情が眼に届きます。教科エリア型ならではの教員と生徒が親しく声を掛け合うシーンが日常です。

教科エリア型は、子どもたちの今の心持ちを察するためにも優れています。意気込む生徒に、ますます鼓舞するメッセージを投じます。うつむく生徒を見つければ迅速に対処します。「いじめ防止」は当然の職務。日常のコミュニケーションが密であれば、鶴見大附属の生徒としてあるべき姿を訓育する礼儀作法教育も行き渡ります。

ホームベースは人間力を形成するために大切な拠点です。人(=友と先生)が心を交わすところだからです。各教科エリアの拡充とともに、ホームベースエリアも、育つベースとして相応しく改善します。

休み時間は、他クラスの仲間やクラブの上級生とすれ違い、朗らかに言葉を交わしています。教科エリア型がもたらした平和な光景を喜びます。今後、数々の策を講じて明朗快活な学園を守ります。生徒の心が曇ってしまわないよう、豊かで健やかな情操を養い、学びの心を守り立てます。



「学び」から入る、進路指導

「学び」を深めることで見つかること



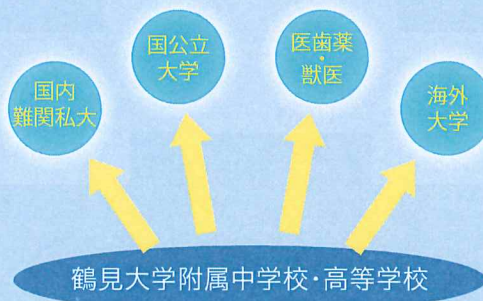
近年、イノベーションに着手。校長から若手教員にいたる全校教職員が学園の志に集い、大胆に発案し、細やかに検証を重ねつつ、一步一步を踏みしめて前進しました。今、来し方の結実を自負し、足取りを速める好機と意気込みます。基礎と柱が完成すれば、全貌のパースペクティブを鮮やかに描くとき。各種未来計画は、私たちの希望。今日、気負い立ち加速するための推進力です。

中学校は、保護者に課せられた教育を受けさせる義務を全うするため存在します。高等学校も同様の使命を負うと捉えるべきでしょう。保護者の立場で表せば、私たちは信託先です。生涯一度の成長期を託される専門職として、揺るぎない信頼を得るよう努めます。また、未来の世界を扶ける逸材を輩出し、広く人々から希望を集める組織を築きあげます。

ここに公表する未来設計は、保護者、および社会に対する信念に満ちた誓言です。

そして、誓約を誠実に果たしてこそ真に希望を集めます。ビジョンを明らかに宣言し、すべてを成し遂げる意義を確かめます。

2021年(平成33年)春の卒業生の大学進学目標



- 首都圏を中心とする国公立大学
- 早稲田大学・慶應義塾大学・上智大学・国際基督教大学・東京理科大学
- 学習院大学・明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学
- 医歯薬獣医系・理工系・看護医療技術系大学
- 海外大学

学歴をもって人物を評価するべきではありません。しかしながら、「学びの心」を磨くために、上級の学府で学問を究めてほしいと願います。保護者、そして子どもたちの本意も同じはず。伸びつづける若いころに自力を限らず、高みを指さし奮励努力する日々にも価値を見いだします。

学園の偉容を誇るために統計数値を積み上げる魂胆は皆無。入試問題研究と指導技術開発には全校をあげて尽力しますが、合格するためだけに策を講じる指導は排します。「学びの心」を胸中に満たせば、自ずと成果が伴うと信じます。

ビジョン実現に向けた2020年までの主要教育課題

	～2015	2016	2017	2018	2019	2020
教科指導	3ステージ制再編	都度、点検・改善	実施・検証 教育課程(カリキュラム)の全面改訂に向けた準備			
	教育課程(カリキュラム)の一部改訂					
	シラバス再検討・再構築					
	学習支援室の有効活用					
	各教科担当者チームの強化(非常勤講師との連携/学年・ステージチームとの連携強化)					
	習熟度別授業の実施	習熟度別授業の改善、向上(アドバンスクラスの設置)				
	理科教育振興のための設備拡充		理科教育の充実			
	鶴見大学連携強化(指導者・施設・教育資産)					
			大学別入試問題の研究			
			英語4技能育成の調査・研究・実践			
進路指導	大学・入試問題研究体制整備(組織化・高機能化)					
		大学入試改革対応考察/指導計画立案・実践				
ICT教育		タブレット端末活用	常時、有効活用研究			
		デジタル教材活用				
21世紀型教育	言語活動教育の機会拡大(コミュニケーション力・プレゼンテーション力・文章力等)					
		アクティブラーニングの実践				
	海外語学研修機会拡大					
		海外留学支援・推進				
		短期留学制度の研究	短期留学制度の創設		交換留学制度の研究	
		海外交流校の充実				
						イマージョン教育の研究
人間教育	部活動支援					
	情操・マナー教育発展					
	ボランティア活動支援					
	教育相談機能強化					
		坐禅堂開放				

アクションプランによる改革促進

	教務部	学習進路指導部	生徒指導部	学校経営
共に生きる力	・オーストラリア語学研修の充実 ・体験学習の整理	・英語力の育成 ・スタディキャンプ実施	・学校行事の充実 ・地域交流 ・スクールカウンセラーとの連携	・学校評価、自己評価による 学校経営の向上 ・階層別研修の充実 ・学校財政の安定化
探求する力	・教科メディアの充実 ・ICT教育の発展 ・学校行事 (修学旅行・体験学習)の充実	・キャリアガイダンス ・特活自由研究の充実 ・授業力向上研修	・教科メディアの充実	・リスクマネジメント体制の確立 ・チーム学校の体制づくり ・施設・設備の整備
挑戦する力	・オーストラリア語学研修の充実 ・検定試験 ・ステージ制プログラム	・一貫した進路指導 ・外部模試の活用 ・特別講座の実施 ・キャンパス見学会の実施	・部活動の充実 ・文化祭(光華祭)の充実	・生徒募集の充実 ・ガバナンスの強化 ・奨学金制度の充実
基礎学力	・教育課程の編成 ・夏期講習の実施	・公開授業、研究授業の充実 ・教科エリア型校舎での授業実践 ・授業での定着チェック体制 ・目標達成に向けての現状把握	・基本的な生活習慣の定着	・安全衛生管理体制の充実 ・魅力ある職場づくり
人間力	・ステージ行事の充実 ・宗教的情操の涵養 ・生徒基本情報のOA化	・キャリアガイダンス ・卒業生の協力促進	・毎朝の朝礼 ・耐寒参禅会への参加 ・ボランティア活動 ・マナー教育の充実	

■ 学びの力を育むために — 各部門の実践 —

改革計画概要

名称:「Crane 翼プロジェクト」

期間:2015年~2024年

プロジェクト理念

学びの心で世界を変える

神の教えを礎に、教科エリア型校舎を最大限に活かし、21世紀の未来を創造する人材を輩出し、広く社会の信望を集める私立学校として発展する。

[→詳細は本誌P01~06に宣言]

○現状の確認と計画の要点

学校概要		
項目	現状【2017年4月】	計画の要点
生徒数	1046名	1080名
教職員数	専任教諭 52名/常勤・非常勤講師 37名/ALT 2名 養護教諭 2名/司書教諭 1名/事務職員 10名	各種教育プログラムの実践やカリキュラムの改訂により、随時、適切な増員を検討する。
校地面積	34,652.57㎡	校舎設備の拡大・縮小は想定しない。経年劣化を防ぐため各々の美化・整備は当然の責務とする。 教材配置・学習機器拡充等、各教室の改善は教育手法の発展・進化に伴うものとする。 →ICT環境と空調に関しては以下、別記。
校舎	+獅子ヶ谷総合グラウンド 35,168㎡	
	教科エリア 主要5教科教室 34室 実技教科教室 8室/CAI教室 2室	
	ホームベース エリア 34室	
	講堂棟 60周年記念講堂・図書館・視聴覚ホール 体育館棟 アリーナ・サブルーム(2)	

設備各論		
項目	現状【2017年4月】	計画の要点
生徒使用PC	72台(CAI教室に配備/2015年度更新)	ハード・ソフトの進化により、適切に更新。
タブレット端末	生徒使用 60台(2016年度導入) 教員使用 90台(2016年度導入)	教科書デジタル化等の事情により、全生徒携帯を検討する。 現状(全教員使用)を継続する。
Wi-Fi	校舎の主要エリアで接続可能	全教科教室・講堂棟・体育館を含む全館で接続可能。(2017年度中)
空調設備	校舎・講堂棟の屋内に完備	講堂棟の空調設備の更新

校外研修・学内講習等			
項目	現状【2017年4月】	計画の要点	
国際交流	1・2学年部	イングリッシュキャンプ(2016年~)	国際交流・語学に関わるプログラムを拡充する。 海外研修・留学制度を質/量ともに発展させる。
	3学年部	オーストラリア海外語学研修学旅行(2013年~)	
	3~5学年部	希望制海外語学研修(2015年~)	
国内研修	5学年部	広島・関西体験研修学旅行(2014年~)	今後も「体験型プログラム」を重んじる。 対象学年拡大・講座数増加を検討。
	4~6学年部	春期・夏期・冬期特別講座	
英会話力支援	3~5学年部	English Lounge (2016年~)	有効活用を期して、随時、改善。

組織運営理念

改革を成し遂げ、さらにその先の未来へ向かい永続的に進化を続けるためには、個々の教職員の技能を高め、強固な組織を築かなければならない。採用から研修制度にいたるまで、人事・教育計画を再考し、教育職員・事務職員に加えて、さまざまな分野のエキスパートとの協働によって子どもたちを見守り支えるチーム力を高める。

▼エキスパート例

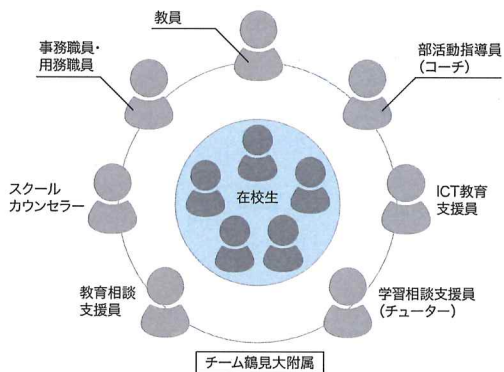
スクールカウンセラー・部活動指導員(コーチ)・ICT教育支援員・教育相談支援員・学習相談支援員(チューター)

人材育成理念

変容が著しい時代に子どもたちを導くときには、教育手法も刷新される。まず、各教職員が広く世界を見渡し、未来を見通し、主体的な「学びの心」を培い、常に研鑽に努め自己改革に励むべきと考える。そのために、内外の研修制度を体系的に再構築する。回数、種類、テーマ、レベルのすべての観点において充実を期す。

▼研修の区分

階層別・教科・進路指導・生活指導・管理職



■インセンティブ強化

勤務体系を再検討して、改革を実現するための勤務条件に適合させる。また、個々の勤務実態・技能・功績に応じる給与体系へ改定する。

→就業規則改定(2017年度より着手)

→給与規程改定(2019年度より着手)

生徒に自分の「好き」をみつけさせ、 夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせる

陽を浴びる朝、キャンパスに「おはよう！」の音が響きます。ホームページに集って、黙念。そして読経。一日の生活に心を込めます。いかなる時流の響き（ときり）が轟いても、鶴見の丘では温和な気風を守り継ぐ。改革・改善に向かって発揚する今、決して見失ってはならない重責を心に銘記します。

＊

生徒諸君は穏やかで慎ましい。我が校の美風と誇るべきでしょう。しかしながら、彼らを見渡すと、時に察じます。謙遜が過ぎて、自力を見限っていないだろうか。私たちは、心が躍るような夢を子どもたちに授けているだろうか。改革を先導する身として自問を止みません。

「君たちみんなに、よき宝が授けられている。堂々と胸を張りなさい。そして、宝を磨きつづけなさい。将来、きっと輝くはず！」

私は、声を大にして伝えつづけたい。学園生活のあらゆる機に広い世界を披露して、夢を育む種として「好き」（=好奇心）を与えたい。「僕はできる！」「私は輝く！」と爽快な笑顔で応じてほしい。目標を高く掲げ、謹厳に精神を保って日々精勤しよう。禅の教えに導かれる私学が投じるべきメッセージは、21世紀の今も不変です。

先行きが不透明な時代は希望が抱きにくい。しばしば、「不穏な時代に備えよ！」と脅してしまいます。私たちは、「安全」「無難」を求めて夢を遠ざけるような教導は排したい。対策教育は本意です。

大人の目には「無邪気」でもよいではないか。中学・高校の時は、みずみずしい生命力がわき起こる絶頂期です。「好き」に始まり夢を描く。そして、未来に鮮やかに花開かせるために、皆が熱い志気を紡ぎながら挑みつづける光景を願います。

私は、数々の改革案の「数値目標」以前に、根源的な「状態目標」を求めます。

＊

未来ビジョンを定めるにあたり、全校の教職員と密に議論を重ねました。子どもたちの成長に寄り添いたい。世界に逸材を輩出したい。教職に就いたので、皆の志は同じです。私立学校たる我が校を自己実現の場として選んだのですから、皆が建学理念に共鳴しています。校長や管理職がトップダウンで指図せずとも、外来の文化・技法で上塗りしなくとも、イノベーションを成し遂げるよう、今、校内を覆う熱気が頼もしく、時宜（とき）に合う未来ビジョンを披露するときに喜びます。

校長 亀山 仁

安全な学校を堅守する

私たちは、1000名を超える子どもたちを預かっています。何よりも先に注力すべきは「安全確保」です。

ことさら、改革案に含めなくとも、常に改善策を講じつづけるのは当然の要務と考えます。

登下校メール機能を強化。登下校時の非常事態に速やかに、細やかに対処します。

連絡網メールなどにより保護者との協力体制を補強します。地域の警察署・交通機関・商店街との連携を深めます。

護身教育の充実をはかり、危機管理意識を高めます。

予測可能な風水害から、突如、見舞う震災にいたるまで、あらゆる災禍を想定し、日ごろから周密に備えます。

校内の施設設備の保守点検にぬかりなく、不慮の事故を防ぎます。

＊

總持寺境内は地域の広域避難場所に指定されています。生徒たちは、万一の大災害時に、自己を防護しながらも人々に献身する凛とした英才であってほしいと願います。

沿革

- 大正13(1924) 4月 光華女学校設置(横浜市中区大岡町)。中根環堂、校長に就任。
9月 学校を大岡町より大本山總持寺香積台に移転。
校舎を現在地に移転(206㎡)。
- 大正14(1925) 2月 鶴見高等女学校設置(大本山總持寺開山常済大師600回大遠忌記念事業)。
- 昭和12(1937) 4月 光華女学校を鶴見第一女学校に校名変更。
- 昭和19(1944) 1月 学園の経営母体を財団法人總持学園とする。
4月 鶴見第一女学校を鶴見女子実業学校に校名変更。
- 昭和22(1947) 4月 新制鶴見女子中学校を設置。
11月 鶴見女子実業学校を鶴見第一女学校に校名還元。
- 昭和23(1948) 4月 鶴見第一女学校、鶴見高等女学校を合併統合し、
新制鶴見女子高等学校を設置。
- 昭和26(1951) 3月 財団法人總持学園より学校法人總持学園に組織変更。
- 昭和28(1953) 3月 鶴見女子短期大学設置。
- 昭和31(1956) 4月 三松幼稚園設置。
- 昭和38(1963) 4月 鶴見女子大学文学部設置。
- 昭和45(1970) 4月 鶴見女子大学歯学部設置。
- 昭和48(1973) 4月 鶴見女子大学を鶴見大学に名称変更。
鶴見女子大学短期大学部を鶴見大学女子短期大学部に名称変更。
- 昭和49(1974) 12月 隣接地7,500㎡の校地取得。
- 昭和53(1978) 10月 創立50周年記念体育館(現道光館)竣工。
11月 テニスコート(全天候式)設置。
- 昭和59(1984) 10月 創立60周年記念講堂・図書館(6,700㎡)竣工。
- 平成7(1995) 7月 創立70周年記念 獅子ヶ谷総合グラウンド(35,168㎡)設置。
- 平成12(2000) 10月 創立80周年記念 正門・前庭整備。
- 平成19(2007) 4月 鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学の附属とし、
鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校に名称変更。
- 平成20(2008) 4月 鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校を
鶴見大学附属中学校・高等学校に名称変更。
- 平成21(2009) 3月 教科エリア・ホームベース型校舎竣工(9,902㎡)。
4月 高等学校仏教専修科創設。
- 平成26(2014) 11月 学園創立90周年記念式典。
- 平成27(2015) 4月 亀山仁、校長に就任。

「大覚円成 報恩行持」 感謝を忘れず、真人となる

学校法人總持学園 鶴見大学附属中学校・高等学校
〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見二丁目2番1号
TEL:045-581-6325
FAX:045-581-6329
<http://tsurumi-fuzoku.ed.jp/>

本冊子は、中期事業計画「Crane 翼プロジェクト」の概要を広くご覧いただくことを目的として作成しております。
2017年6月1日発行